

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	43	学校名	茨城県立波崎柳川高等学校						課程	全日制		学校長名	朝日 靖			
教頭名	石川 正幸										事務(室)長名	小島 里子				
教職員数	教諭	22	養護教諭	2	常勤講師	5	非常勤講師	3	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	4	計	42
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	31	28	46	37	48	38			125	103		8			

2 目指す学校像

生徒が地域とともに「挑戦できる・可能性を伸ばせる・成長できる」学校～笑顔で チャレンジ・やりきる・思いやる～

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ～未来へつなぐ～ ○仲間とともに高め合い、さらなる成長を目指す力 ○夢や目標の実現に向け、最後までやり抜く力 ○地域の課題を意識し、社会貢献できる力
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ～可能性を拓げる～ ○自分を信じ、何事にも積極的に挑戦する姿勢 ○夢や目標を見出し、主体的に行動する力 ○仲間と協力し、互いを尊重しながらともに成長する力
「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ～自分を築く～ ○自分の長所を活かし、自信を育む姿勢 ○何事にも一生懸命取り組み、学びの基礎を固める姿勢 ○身近な人や社会のためにできることを考え、行動する力

別紙様式 1 (高)

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
進路支援	R7年度末の進路状況(卒業生49名)は、進学32.6%、就職67.4%であった。R6年度は進学35%、就職52.5%、未定12.5%であり、前年度に比べると未定者が激減した。本校の生徒は学習習慣が定着しておらず、学習状況リサーチでは多くの生徒が「全く学習しない」という状況で、学年が上がるに従い、学習時間が減少する傾向にある。反面、「成績を伸ばしたい」「学習の方法がわからず悩む」と回答する生徒が約半数いる。他にも「進路について悩む」生徒が各学年3割程度いることもわかっている。これらを踏まえ、各学年や各教科において組織的な対応と適切な情報提供が求められる。	学習習慣の定着と学力向上については、意図的・計画的にしかけ、生徒・保護者・職員が協働できるように働きかける必要がある。授業改善としてはClassi及びタブレットの利用などを推し進めつつも、知識定着のために振り返りなどの地道な指導にも力を入れていきたい。また、「生徒の実態に合ったプログラム」や指定2年目となるNIEの実践等によって学力向上と進路実現を達成させる必要がある。学年と教科・校務分掌で連携し、一人ひとりの「自己存在感」「満足感」「達成感」が得られる体制づくりと一人ひとりの進路希望を実現するための支援が急務である。
生徒支援	R7年度の事故報告件数37件、交通事故は5件であり、R6年度の事故報告件数は11件増加、交通事故が6件減少した。いじめの認知件数は5件、重大事態は0件となった。事故報告の内訳はSNSの不適切利用が6件、交通事故が5件、対教師暴言が4件、無免許運転が2件、指導拒否が3件、生徒間暴力が3件、対教師暴力が1件、いじめの行為が2件、校内外迷惑行為等が11件となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と生徒・保護者との関係づくり ・自律した生活を送ることができる生徒の育成 ・公共のマナーを守る態度の育成 ・事件、事故の未然防止に向けた取り組み ・生徒個人の心情に寄り添った指導、支援の充実
特別活動	R7年度は11月に体育祭を保護者に公開で実施した。生徒の振り返りアンケートの結果から、主体的に活動できたと答えた生徒や、思い出に残ったと答えた生徒が多く、生徒主体の活動を展開することができた。また、年間を通してボランティア活動に参加する生徒も多く、全体で94名の生徒が参加していた。12月には毎年実施しているラジオ収録に生徒会役員が参加し、広報的な活動も実施することができた。各部活動においても、目標を設定し、練習時間や内容の工夫をしながら活動することで、主体性を高める活動が実施できている。	生徒が主体的に活動している様子が、保護者や地域の方々、特に中学校に伝わっていない部分が多い。そのため、生徒会活動を軸として、各種委員会を機能させながら学校行事や部活動を質の高い教育活動とし、地域の中学生や保護者などに、本校の特別活動の良さをPRする活動が必要である。その中でも特に委員会の活動が活性化できていないため、次年度は委員会を活動させる体系や時間を作成していきたい。また、PTAや後援会など、地元の社会人の力を借りながら、よりよい特別活動の実施ができるよう、綿密な計画を立てる必要性を感じる。
働き方改革	勤怠管理システムの効率的な使用によって、勤務時間、超過勤務など時間管理の意識が高まり、在校時間の減少傾向が続いている。	繁忙期になると部活動顧問や学級担任が超過勤務になりやすい。顧問間や担任・副担任との業務の分担を図る必要がある。

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

- | | |
|---|--|
| 1 | 挑戦する学びを通して、自ら考え行動する力を育み、進路実現と社会貢献へとつなげる。 |
| 2 | 夢の実現に向けて最後までやりきる力と、仲間と高めあいながら社会で生き抜く力を育てる。 |
| 3 | 自信と意欲を育み、思いやりをもって学びに向かう姿勢と、豊かな人間性の基礎を築く。 |
| 4 | 協働と業務改善を推進し、職員がお互いに支えあえる働きやすい環境を整える。 |

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
学習指導	① 基礎的・基本的な知識の定着と、相互の価値観を尊重しながら協働的に学ぶ力の育成 ② 主体的・対話的な学びを深め、思考力と発信力を養い、課題解決に向けた実践力の向上
授業改善	③ 生徒の授業満足度 80%以上 (KPI) を目指し、わかりやすく工夫された授業づくりの推進
特別活動・部活動	④ 主体性を育む学校行事、生徒会活動、常任委員会活動の充実 ⑤ キャリアパスポートと教育活動・行事との効果的な関連づけの実践 ⑥ 健康と安全を意識した、持続可能な生活・生涯スポーツにつながる活動の推進
生徒支援	⑦ 基本的な生活習慣と時間意識、TPOを踏まえたマナー・身だしなみの定着 ⑧ 校内外での交通安全指導の強化と、命の大切さ・規範意識の向上 ⑨ SNSを含む情報機器の適切な活用と情報モラルの向上
進路支援	⑩ キャリア教育の充実・ICT活用の推進、振り返りと課題設定を通じた学習習慣の定着 ⑪ ゼミ・資格取得支援体制の充実 ⑫ 進路相談体制の強化・改善 ⑬ 企業・大学等との連携プログラムの充実
地域・関連機関との連携	⑭ 学校間・関係機関(神栖市三校包括連携協定・PTA・同窓会)との連携による教育活動の活性化 ⑮ 地元学校(柳川小、波崎三中、神栖三中)・企業との交流・協働を通じた地域共育の推進 ⑯ 学校説明会の充実と教育活動の積極的な広報
働き方改革	⑰ 全職員の連携による業務の効率化、行事や業務の見直しと重点化 ⑱ ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方の定着